

国内のスポーツ普及に関する研究
—ハンマー投の場合—

今田 雄大 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)
指導教員 新井 博

キーワード：ハンマー投,スポーツ史,オリンピック

1. 緒言

ハンマー投は陸上競技のフィールド種目で、スコットランドで始められたスポーツである。その始まりについては、兵士たちの力比べや貴族の余興として行われていた。

私自身高校入学後ハンマー投を始めて大学入学後も続けてきたが、ハンマー投という競技が日本国内でどのように発展してきたのか全く知らずに競技を続けてきた。自分が学生生活の多くを費やしたハンマー投について、国内で一般的に知られるまでになった歴史を調査したいと思った。

本研究では、ハンマー投が日本国内でどのように発展してきたのか、記録とルールを中心に歴史的に明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

文献による調査を実施した。日本陸上競技史、近代スポーツ史、オリンピック史などの関連書籍、また、陸上競技を取り扱う情報誌などに広く目を通し、ハンマー投の歴史に関する記事を中心に調査を行った。

また、ハンマー投げを経験した元選手から、当時の様子など歴史についてインタビューを実施した。

3. 結果と考察

ハンマー投は他のスポーツと違い、終戦前に外国人の海兵によって日本へ伝わった。その後日本のスポーツは海外へ引っ張られる形で発展し、ハンマー投でもオリンピックで入賞できるまでになった。

現在では室伏広治を中心に「チーム・コウジ」が世界のハンマー投を牽引している。

4. まとめ

今回の調査で国内のハンマー投について大まかな歴史と流れが分かった。ルールについては道具やサークルの改良や防護ネットについて改正が何度も行われてきた。

日本記録は現在までおよそ100年間で76回更新されているが、戦後に記録の向上が著しいことが分かった。

しかし、今後の課題として女子のハンマー投やマスターズなどまだ調査対象が多く存在する。今後も調査を続けていきたい。

【引用・参考文献】

- 室伏広治(2012) 超える力,pp.112-116.
山本邦夫(1974) 日本陸上競技史,p.24.
pp.1209-1211.
山本邦夫(1974) 近代陸上競技史, 上巻,pp.
119-124.